様式11　3つのテーマについての提案

集まって住むことで小さな都市をつくる

高齢者や単身世帯の増加、子育ての負担等、現代の社会が抱える問題の一側面は、世帯間相互の関係性の希薄と孤立化にあります。多くの世帯が高密度に集まって住む集合住宅という形式は、住民相互が日常的に関わりを持ち孤立化を抑制する可能性を持っているはずです。本計画では、住棟単位を超えてそこに住むすべての住民相互の関わりを促すとともに、世代交代を含めて長いスパンで持続するシステムを持った、小さな都市としての集合住宅の在り方を提案します。住民間の接点をつくる目抜き通りと共用廊下の交差点、各住戸と共用廊下の交差点としてのドマ、住戸内の各個室や家族の交差点としてのダイニングキッチン。家族間や住戸間、住棟間、まちとの段階的な接点の集積する、遭遇可能性の高い場をつくります。

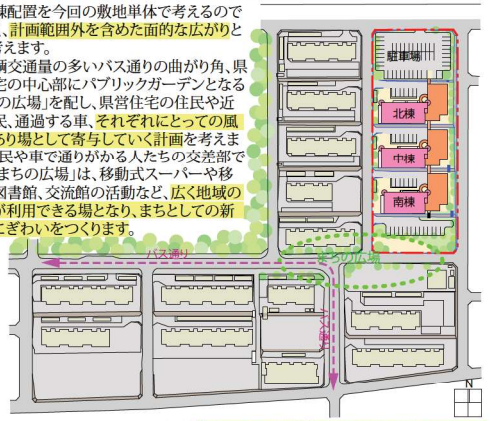
また公的な場として、周辺市民にも寄与する環境づくりを行います。バス通りの曲がり角に面する、県営住宅街区の中心に「まちの広場」を設けます。車と徒歩の移動速度の差をつなぎ、県営住宅内外の住民をつなぐ場となります。

現在の敷地は管理の容易さを優先することで住み手の気配の希薄な「誰のものでもない場所」が大勢を占めています。一方でベランダからあふれる鉢植えや庭の片隅に植えられたバラや腰掛など住民個人の自主的な場所との関わりも見られます。管理とのバランスを取りながらも、様々な関わり方や事象を許容する新しい公的なあり方を考えます。

テーマ1　「豊かで特徴的な敷地条件を活用した良好な地域環境」について

住棟配置を今回の敷地単体で考えるのではなく、計画範囲外を含めた面的な広がりとして考えます。

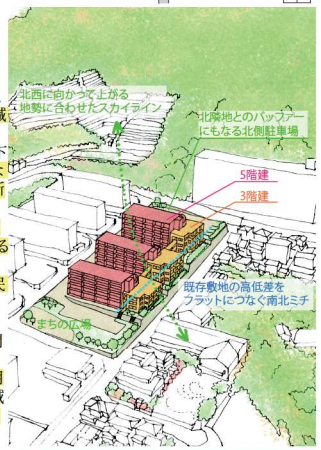
車輌交通量の多いバス通りの曲がり角、県営住宅の中心部にパブリックガーデンとなる「まちの広場」を配し、県営住宅の住民や近隣住民、通過する車、それぞれにとっての風景であり場として寄与していく計画を考えます。住民や車で通りがかる人たちの交差部である「まちの広場」は、移動式スーパーや移動式図書館、交流館の活動など、広く地域の人々が利用できる場となり、まちとしての新たなにぎわいをつくります。



住宅地に面する東側に3層、その西に5層となる住棟を、既存地形に合わせて3棟計画します。北西に向けて標高の上がる元の地勢に合わせたスカイラインをつくるとともに周囲への圧迫感を軽減した計画とします。

東側の3層建物同士を渡り廊下で接続し、造成を行なわずにひな壇造成のレベルをフラットに横断する「南北ミチ」を通します。北側駐車場から各住戸まで天候の影響を受けずに安全に行き来できる「目抜き通り」として、住棟単位を横断して日々の暮らしの中で住民相互が出会う空間となります。

地域に開かれた「まちの広場」や北側にまとめた駐車場、住棟間のコモンスペースとなる駐車場・駐輪場など、段階性を持った共用外部空間をつくることで周辺地域を含めた住民間の関係性を調整します。



南東からの外観イメージ
東側のボリュームを抑え、南に大きくまちの広場をとる

テーマ2　「安心して住むことのできる利便性に配慮した住環境」について

ここに住む住民同士が日常的に接点を持つ機会が増える計画とします。

ひな壇造成された既存敷地の中央3レベルに建物を3棟配置しそれぞれを渡り廊下で接続することで、敷地のレベル差をフラットに接続し敷地と各棟を南北に横断するストリートとなる「南北ミチ」を通します。敷地南側の「まちの広場」から各住棟を通り北側の駐車場まで屋根下空間で行き来することが可能であり、3棟の住民みんなが行き交う目抜き通りとして、住棟単位を超えた住民相互が出会う場となります。

住戸を東西につなぐ共用廊下である「東西ミチ」と「南北ミチ」の交差点はエレベーターホールとして日常的な交流の場をつくります。交差点に面した円弧状の階段は踏面の広い緩やかな勾配を持ち、単なる上下移動の動線を超えて交差点に立体的な関わりをつくります。

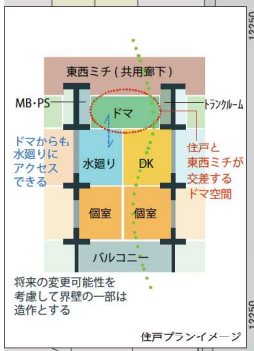
各住戸と共用部の接点となる住戸入口にはドマを設け、ミチと住戸の中間領域として様々な使い方を許容しながら生活の様子や行き交う人の気配が垣間見えるようにします。

なるべく様々な世代が出会うよう、住戸タイプを混在させ、また人通りの多くなる南北ミチや交差点の近くに単身者用の住戸を配置します。

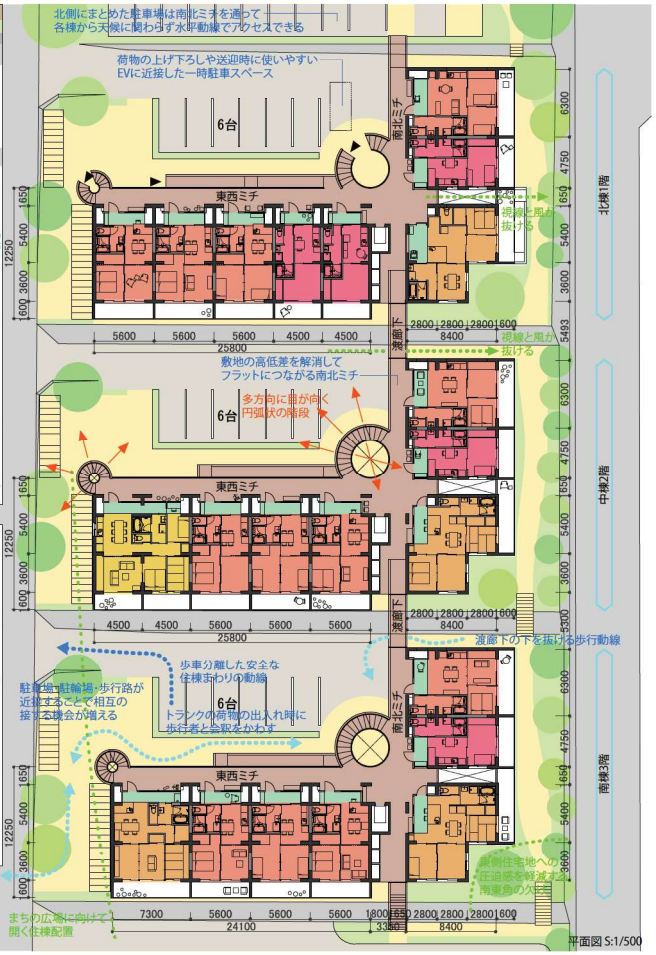
敷地の北側に大きく駐車場をまとめて多くの人が南北ミチを通ることを基本としつつも、住棟間にも駐車場や荷下ろしスペースを配置します。グランドレベルでの各住棟の入口まわりは適切に歩車分離をしつつも、駐車場や駐輪場、歩行動線が近接して住民相互の接点となるよう計画します。

構造はRC壁構造としてコストに配慮しながらも、将来的な間取りの改変にも対応可能なよう、界壁の一部は構造体でなく造作でつくります。

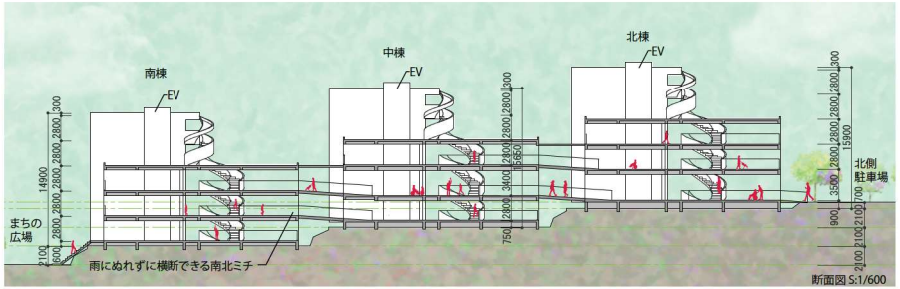
住棟ゾーニングイメージ



住戸プランイメージ

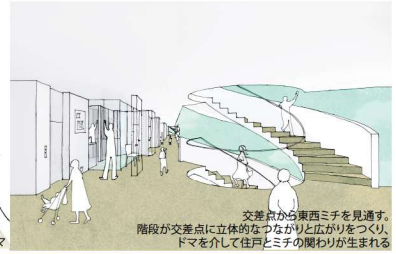


1DK(15 戸)　2DK(54 戸)
3DK, 2DK(身障者用)(14 戸 +1 戸)
4DK(6 戸)



南北ミチと東西ミチの交差点
ミチと住戸の接点としてのドマ

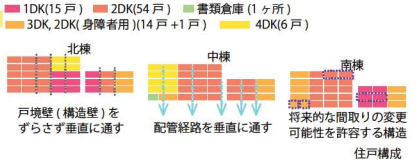
住棟間コモンスペース
駐車場・駐輪場・歩行路が近接することで相互の接する機会が増える


交差点から東西ミチを見通す。
階段が交差点に立体的なつながりと広がりをつくり、ドマを介して住戸とミチの関わりが生まれる

テーマ3　「実現性の高いコスト縮減策と堅実なコスト管理方法」について

各水平地盤内に住棟を配置し、敷地のレベル差を空中の渡り廊下で接続することで、既存の擁壁や外構工作物に触れず、全体工事コストを抑えた計画としています。

各棟を2100㎡以内として屋内消火栓設備が不要な計画とし、また各階の躯体をそろえたRC壁構造として施工性とコストに配慮します。配管経路を垂直に通し、将来のメンテナンスの容易な計画とします。

県産木材は、木建具や内装、雨掛かりのない外装等、劣化に配慮しながら日常的に木の温もりを感じられる部位に効果的に用います。

ZEH基準への対応や太陽光発電の検討などコスト増減に大きく関わる事項を早期に検討するとともに、シンプルな全体の空間骨格と構造躯体とすることで、建設物価の上昇に対応が容易なリダンダンシーを持った設計プロセスと建物計画とします。